

氏名	溝口博喜
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 4680 号
学位授与の日付	平成25年 3月25日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科生体制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)

学位論文題目 Refined Balloon Pulmonary Angioplasty for Inoperable Patients with Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension
(外科的手術が不可能な慢性血栓塞栓性肺高血圧症患者に対する内科的肺動脈バルーン形成術の新技术法)

論文審査委員 教授 佐野俊二 教授 成瀬恵治 准教授 大藤剛宏

学位論文内容の要旨

慢性血栓塞栓性肺高血圧症(CTEPH)は外科的血栓内膜摘除術(PEA)が唯一の治療法である予後の悪い疾患であるが、手術困難なCTEPH患者に対しては内科的に肺動脈バルーン拡張術(BPA)が行われてきた。しかし合併症である再灌流性肺障害のコントロールに難渋し、死亡率もPEAのそれを凌駕することができなかつたためBPAが普及するには至らなかつた。そこで我々は手術困難な重症の末梢型CTEPH患者68名に対して、BPAを行いその効果を評価した。我々の改良点は、血管内エコーを用い至適バルーンサイズを選択したこと、再灌流性肺障害を減らすために肺動脈圧に応じて治療戦略を変更したことである。それにより術後再灌流性肺障害を最小限に抑えるとともに、平均肺動脈圧は 45.4 ± 9.6 mmHgから 24.0 ± 6.4 mmHgと著明に改善し、自覚症状も改善した。

従来のBPAとは一線を画した我々の手法は、今後CTEPHの治療手段の一つとなり得ると考える。

論文審査結果の要旨

慢性血栓塞栓性肺高血圧症(CTEPH)は外科的血栓内膜摘除術(PEA)が唯一の治療法である予後の悪い疾患であるが、手術困難なCTEPH患者に対しては内科的に肺動脈バルーン拡張術(BPA)が行われてきた。しかし、合併症である再灌流性肺障害のコントロールに難渋し、死亡率もPEAのそれを凌駕することができなかつたため、BPAが普及するには至らなかつた。

本研究者らは血管内エコーを用い、至適バルーンサイズを選択し、また再灌流性肺障害を減らすために肺動脈圧に応じて治療戦略を変更した。これらの工夫によりBPAがriskを最小限に抑えつつ血行動態や自覚症状を著明に改善することを証明した。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。